

やまなしの福祉

9 No.343
2018
月号



甲斐市ペタンク協会のみなさん

特集

元気じゃん！やまなし！ ～ 健康長寿・山梨県～

- | | | | |
|-----|-----------------------|-----|---------------|
| P6 | 災害ボランティアセンターの役割と活動 | P12 | 各種イベントの開催報告 |
| P9 | ことぶきマスター人材バンク利用の流れ | P13 | 下半期研修のご案内 |
| | 関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会 | P14 | 介護講座のご案内 |
| P10 | シルバー作品展・俳句大会 作品紹介 | P15 | ボランティアセンターの紹介 |

山梨の文化が支える健康長寿

厚生労働省が発表した最新の都道府県別・男女別の健康寿命によると、山梨県は平成28年の都道府県ランキングで男性1位、女性3位。全国トップクラスの健康長寿県として、関心を集めています。

健康長寿を支える要因はどんなところにあるのでしょうか。今回は、県内で活躍するシルバー世代を取材。趣味に打ち込んだり、仲間と談笑するなど、生き生きとした姿がありました。

「山梨の健康長寿を支えるのは無尽や助け合える仲間の存在」と話すのは、健康寿命の研究や延伸に取り組む山梨大学大学院・山縣然太朗(やまがた ぜんたろう)教授と県の健康増進課課長下川和夫(しもかわ かずお)さん。健康長寿に関する最新の研究や県の取り組みについても紹介します。

INTERVIEW. 1

つながりが、活力になる。

山梨の文化と県民性が、健康長寿をつくっています

山梨大学 大学院教授 山縣 然太朗さん

介護を受けることも、寝たきりになることもなく、基本的な日常生活を自力で行える期間を意味する「健康寿命」。平成30年3月に厚生労働省が発表した都道府県別・男女別の健康寿命をみると、山梨県は、男性1位、女性3位(平成28年)となりました。その前(平成25年)の調査では、男女とも全国第1位。山梨県は男女ともに、健康寿命が長い県といえるでしょう。

では、その要因はどこにあるのでしょうか。「疫学」という、人を対象として病気の要因を明らかにする医学系研究を専門とし、山梨の健康長寿の研究者としても知られる山梨大学大学院教授・山縣然太朗さんにお話を伺いました。



山梨大学院 総合研究部医学域
山梨大学 医学部 医学博士
山縣 然太朗 教授

「ソーシャル・キャピタル」の醸成と、個人が意思を持って生きることの大切さ。

日本は世界一の長寿国であり、山梨県は中でもトップクラスの健康長寿県です。山梨県と山梨大学は平成15年頃からその要因を明らかにし、さらに健康寿命を延ばすべく動き出しています。山梨大学大学院の山縣然太朗教授は、今年3月に発表された健康寿命ランキングの結果とその要因を次のように考察しています。

- ① 山梨県に合った指標で図られる調査であること
- ② ソーシャル・キャピタルの醸成
- ③ 役割を持つ高齢者の多さ

まず、健康長寿ランキングの元となる調査は「国民生活基礎調査」という自分で自分の健康を評価する調査です。つまり、調査結果は健康を自覚している人の割合の高さであり、山梨県には「元気と思って自力で生活できる方」が多いということ。

事実、山梨県は要介護度2以下の方が少なく、個人の予防意識の高さに加え、少々できないことがあっても自力でなんとかしようとする自立心の強さが伺えます。

次に、山梨独特の文化である「無尽」の存在も健康長寿の大きな要因です。無尽は仲間同士で親身に共助するコミュニケーションシステム。気が置けない仲間と集まり、他愛のない話をすることや、時には愚痴を言いながらストレスを解消することが、精神の安定を大いに助けられていると考えられています。「嫌々参加している人よりも楽しみに参加している人、さらには健康や政治の話題をする人は元気という調査結果も出ています。人と人のつながりや団結力、信頼関係、規範といった『ソーシャル・キャピタル』の

醸成が健康長寿の大きな支え。年をとると、今年できていることが来年は難しくなりがちですが、『また次も』と将来を楽しみにすることで、もっと健康に気を使おうという意識が自然と高まるでしょう。これらと同様に、就業や老人クラブの参加、ボランティア活動、家事などの家庭での役割など、社会的に何らかの役割を持っているのも、健康寿命の延伸に役立っていると考えられます」

ライフコース※を通して、生活習慣病の予防を

「健康とは、個人の生活習慣病予防が何より大切」と山縣教授。健康寿命のさらなる延伸のためには、若いうちからの意識と取り組みが大切だと教えてくれました。

「これからは、ライフコースを通して健康を考えることを促していきたいと考えています。どういう時期に、どんなことをしておくべきというポイント(クリティカルピリオド)を知り、みんなが健康に意識を持てる社会が生まれ、個人の『どう生きたい』に沿って、サポートできる体制が整うのが理想ですね」と山縣教授は話して下さいました。

※ ライフコース=個人が一生の間にたどる道筋のこと。具体的な人生の道程、キャリア経歴のようなもの。

INTERVIEW.2

様々な団体の熱心な取り組みが県民の健康に 健康増進計画 「健やか山梨21(第2次)」の 成果とこれから

山梨県 健康増進課 課長 下川 和夫さん

健康寿命の都道府県別ランキングの結果について「山梨県福祉保健部健康増進課」では、どのような感想を持ったのでしょうか。これまでの取り組みとこれからについて、課長の下川和夫さんにお話を伺いました。

自治体の取り組みと、山梨県特有の文化

3年ごとに行われる都道府県別健康寿命ランキングが公表されました。前回トップだっただけに、「結果が出るまで不安に思っていた」と下川さんは話します。男性1位、女性3位という結果を受けてその背景にある要因を考えたところ、「各市町村や関係団体の取り組みに感謝ですね」と下川さん。特に、山梨県は特定健診やがん検診の受診率が非常に高く、これは、健康に対する個人の意識はもちろん、自治体の呼びかけがあってこそ。地域の健康を見守る保健師の多さや、高齢者の就業率の高さ、そして無尽といった山梨県特有の文化も注目すべき事柄です。

10年計画のちょうど折り返し地点

県では平成25年から『健やか山梨21(第2次)』という健康増進計画を推進。健康寿命の延伸と健康格差の縮小を柱とした45の目標と80の指標を作り、いきいきと健やかに暮らせる社会の実現のために関係団体の方々と取り組んで参りました。ちょうど今年はその折り返し地点。現在、中間評価を行なっていますが、80の指標のうち、7割は改善が見られるものの、3割は変化が乏しいという状況です」と下川さん。その3割とは、運動習慣のある人の割合が増えないことや、メタボリックシンドロームの該当者や予備群者が減らないことや、喫煙率の高さなどとなっています。今後はそれらを中心に改善に取り組んで行くそうです。

健康寿命が県民のQOL※を高める

健康寿命が長いことは、医療費の削減につながるのはもちろん、県民が生涯を通して健やかで心豊かに暮らせることにもなります。「これからは健康意識が高い高齢者に加え、健康にまだ関心の薄い若い世代や働き盛りの世代にも、健康管理を一層促していきたい」と下川さんは言います。

※ QOL=クオリティオブライフのこと。生活の質、生命の質。個人が生きるうえで感じる日常生活の充実度や満足度。



山梨県 福祉保健部 健康増進課
課長 下川 和夫さん



INTERVIEW.3

仲間とプレーする楽しさ、やりがい ペタンクで健康増進と親睦を

甲斐市ペタンク協会

フランス発祥のスポーツ・ペタンクは、「土の上のカーリング」とも言われる頭脳を使ったスポーツ。地面上に引かれた50cmのサークルから、ビュットと呼ばれる目標球に向かって金属製のボールを投げ合い、得点を競います。近年は、幅広い世代が楽しめるスポーツとして人気を集めています。平成29年秋田県で開催された「ねりんピック」県代表の中嶋衆太(なかじまもりた)さん(84歳)が在籍する、甲斐市ペタンク協会の練習を訪れ、その魅力を探りました。



甲斐市ペタンク協会
中嶋 衆太さん

仲間とプレーし、勝利する喜びがやみつきに

「ペタンクをはじめて13年」という中嶋衆太さん。チームを組んで大会に出場し、全勝で優勝したことをきっかけに「やみつきになりました」と笑顔で話します。中嶋さんが所属する甲斐市ペタンク協会は、年に5回ある大会に照準を合わせて練習をします。週2日の練習は、和気あいあいとしたムードの中で行われていますが、試合になると一変。声を出してはいけない、などの厳しいルールやマナーに即して振る舞います。「普段の練習はレベルを3つに分けて、どのチームも力が同じくらいになるように構成し、ゲーム形式で行っています。ペタンクはスポーツ。勝ったり負けたりも面白さの一つですから」と中嶋さんは話します。

健康増進、健康管理に大きな効果

「ペタンクは、やればやるほど難しく、それだけにハマるスポーツ。ペタンクのボールは650g~800gとずっしりくるものですが、このボールを持ってなくなったり、6~10mほどの移動がきつくなるまでは続けたいと思っています」と中嶋さん。「ペタンクが好きだからか、皆さん意識高く健康管理をしていらっしゃるよ」と教えてくれました。

小さなスペースでできるペタンクはこれからますます人気になっていくのでしょうか。真夏の暑さをものともせず、ボールを投げては一喜一憂して楽しんでいる参加者たちの様子が印象的でした。



ゲームに興じるチームの皆さん



事務局 深澤 芳次さん



INTERVIEW.4

自由な表現を楽しめる場所に 演奏を通して、多様性と 居場所づくりを支える

ボランティアセンター 芸能ボランティア
トゥーレモンド・エクスプレッション

市立図書館のみんなの広場から始まった活動は、介護施設や市役所など様々な場所に広がりました。「トゥーレモンド・エクスプレッション」とは“みんなの”と“表現”という意味の単語を組み合わせた造語です。その名の通り、“みんなの表現”を支える活動を展開するシルバー世代の皆さんにお話を伺いました。

活動のきっかけ

今回、お話を伺ったのは「トゥーレモンド・エクスプレッション」の立ち上げから活動に携わっている主要メンバーのひとり深澤芳次(ふかさわ よしつぐ)さん(65歳)。2人で始めた活動は次第に拡大し、現在は11名のメンバーが在籍しています。

「トゥーレモンド・エクスプレッション」は名前の通り、みんなが自由に表現出来る居場所づくりを基盤に演奏活動を展開しています。きっかけは深澤さんが「みんな自分の現状を上手く表現することができないでいる。だから、自由に自分を表現出来る場所をつくろう。そうすればより人と人がつながることができる」と考えたことです。「トゥーレモンド・エクスプレッション」という団体名には、深澤さんの願いが込められています。

これからについて

今後の活動についてお聞きすると「必要なのは横のつながり、サービスとして与えられる事よりも“人の輪”を広げることが大事だと思えます。それが、みんなに居場所をつくることに繋がりますから」と教えてくれました。「トゥーレモンド・エクスプレッション」はメンバーや協力者を増やし、“人の輪”の広がりを見せています。

主催するジャンルにこだわらないコンサート「紡ぎ合うあなたのステージ」は、様々な人が自由に表現できる場所です。「今年中に、あと2回ほど開催を予定しています」と下半期も精力的です。是非一度、その“表現”に触れてみてはいかがでしょうか？



若者も高齢者も関係なく、
みんなで心の糸を紡ぐステージ

INTERVIEW.5

普段の自分とは違う“役”を演じる面白さ リタイア後の第二の人生、 新しい自分を楽しむために



代表 石川 治さん

ことぶきマスター
シニアふる里劇団

最高齢者は78歳。ことぶきマスター人材バンクに登録している「シニアふる里劇団」は、9名のシルバー世代のみで構成される小さな劇団です。様々な施設やイベントから声がかかり、ほとんど毎月県内のどこかで公演し、観客を楽しませています。「劇団に誘っていただいたことは、わたしにとって一つの転機でした」と話す石川治(いしかわ おさむ)代表(77歳)に劇団に加わったきっかけやシニアふる里劇団の活動について、お話を伺いました。

第二の人生を、どのように“有意義”にしていくか

「奥さんに先立たれ、これからどうしようという時にスカウトされました。演技経験なんてありませんでしたよ」と話す代表の石川治さん。だいたい月1回のペースで「世の中のためになることを演じる」をモットーに、観客に合わせた題材で笑いや気づきを表現し演じてます。

例えば“オレオレ詐欺”防止のためのシナリオを用意して老人ホームで演じたり、童話をアレンジして幼児の前で演じたり。観る人が興味をもてる内容を楽しく観られるように工夫しています。稽古は週に1度ですが、「週に1度練習のためにここに来て、みんなに会うことがとても楽しみになっているというメンバーがほとんどじゃないかな？」とのこと。また、女性メンバーからは「だんだん“家族”ようになってくるんです。みんなで旅行に行ったり、忘年会をしたり、山菜を採りに行ったり…。そういうのも全部ひっくるめて楽しいですよ」と話してくれました。

生き甲斐を仲間と一緒に分かち合う

「10年以上活動が続けば、団員もどんどん年をとります。メンバーが減り、最近では一人二役演じることも多いですから、セリフを覚えるのも大変です。けれど、こうして集まってみんなで笑う時間があるからこそ、いつまでも気持ちを若くいられると思うんです」と石川さんは言います。

演じていて、もっとも嬉しい瞬間は「観客とリズムや呼吸が合い、会場と一体になれたとき」だそう。そして、それを分かち合える仲間の存在は自分の人生で失くせないものだと言わせてくれました。



ステージを通じ幅広い世代が
楽しめる演劇を上演しています

災害ボランティアセンターの役割と災害ボランティア活動

近年、私たちの想像を上回る大規模な自然災害が全国各地で多発しています。7月の西日本豪雨災害(平成30年7月豪雨)では、多くの尊い命が奪われ、また家屋や交通機関も甚大な被害が発生しました。

大規模な災害が起きた際、日本全国から多くのボランティアの方々が被災地に駆けつけ、被災者の生活再建に向けた支援活動が行われます。

このとき、市町村社会福祉協議会は「災害ボランティアセンター」を設置し、ボランティア活動を円滑に進めます。

災害ボランティアセンターの役割

地域で大規模な災害が発生したとき、市町村社会福祉協議会は、「災害ボランティアセンター」(以下、「災害VC」)を設置します。

この「災害VC」では、被災者の困りごと、お手伝いしてほしいこと(ニーズ)を把握し、ボランティア(個人・団体)を受け入れ、ボランティアの派遣(マッチング)や支援活動に必要な資機材の貸し出しなどを行います。



①被災者のニーズの把握

被災地域の住民に、災害VCの活動内容についてのチラシの配布や地域の実情をよく知る地元関係者などと連携し被災者のニーズを収集します。

②ボランティアの受け入れ

ボランティア希望者・団体の受付を行います。
また、ボランティア活動中の事故などに備えて「ボランティア保険」への加入手続きも行います。



③ボランティア活動現場の確認

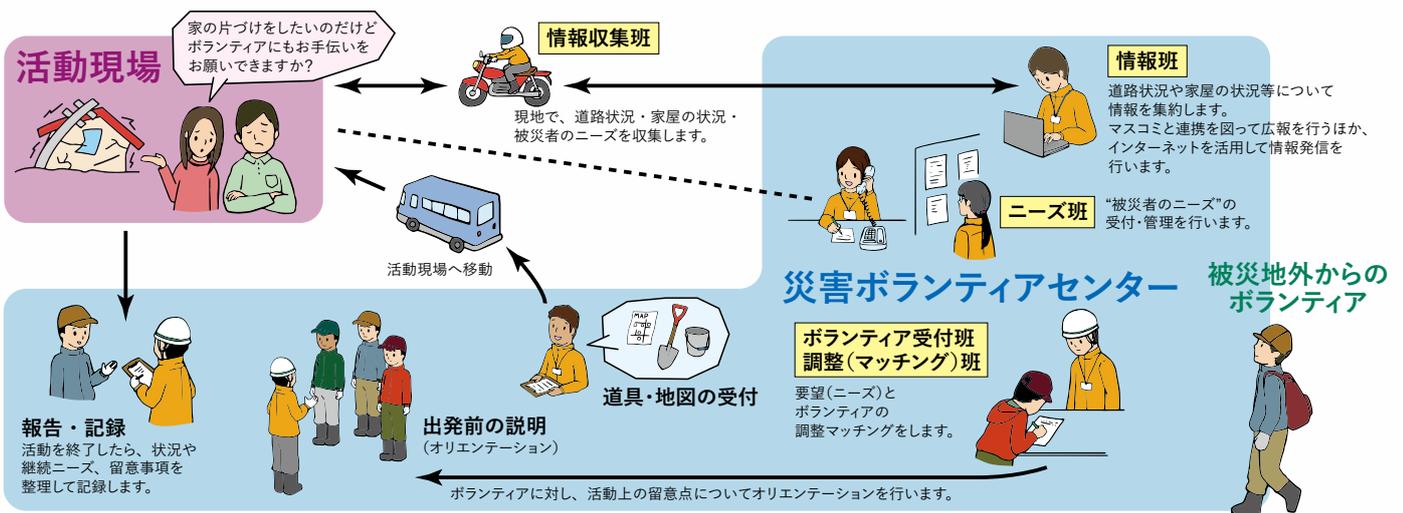
ボランティアを派遣する前に、ボランティアが活動する現場を確認し、活動の安全性、活動に必要な機材を事前に確認します。

④被災者ニーズとボランティアのマッチング

ボランティア希望者へ、活動先での活動内容や注意事項について説明し現場へ送り出します。また、活動終了後は、活動状況(活動完了や継続の有無)を聞き取りニーズを管理します。

⑤資機材の貸し出し・管理

ボランティアの活動に必要な道具を準備し貸し出しを行います。



※上記のほか、ボランティアの休憩場所、医療救護所が設置される場合があります。

災害VCは、被災地の市町村社会福祉協議会が立ち上げますが、運営にあたっては、市町村社協の日頃のネットワークを活かし、地域のボランティアや自治会や民生委員など、地域の実状を知る人たちが関わることで、ボランティアの受け入れや被災地のニーズ把握を効果的に行うことができます。

災害ボランティア活動に参加するには…

災害時におけるボランティア活動は、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で、全国から延べ約130万人以上の方が支援活動に参加したことから、その重要性が広く認識されました。

災害ボランティア活動とは、災害発生時から復興に至るまで、被災地のために復旧・復興のお手伝いを行う活動のことをいいます。家屋の片付けや炊き出し等の直接的な復旧支援、被災者の活力を取り戻すための交流の場づくりなど、被災者ニーズに対応します。

災害ボランティア活動に大きな期待が寄せられる一方で、ボランティア活動が被災地の人々や他のボランティアの負担や迷惑にならないよう、ボランティア一人ひとりが自分自身の行動と安全に責任を持つことが求められます。そこで、災害ボランティア活動に参加する際の基本的な注意事項について主なものをご紹介します。



① 正しい情報・最新の情報を入手

被災地に行く前に、現地の災害ボランティアセンターや社会福祉協議会のホームページなどで正確な情報を入手します。

② 服装などの準備

被災地での活動は、重労働となる活動もあります。災害の種類によって活動に必要な服装が違いますので、十分な準備が必要です。

③ 食事・宿泊場所の確保

宿泊場所は自前で調達するのが原則です。ボランティア自身が事前に被災地の状況を確認し手配します。水、食料、その他身の回りのものについても自分で用意し、携行のうえ被災地でのボランティア活動を開始します。

④ ボランティア保険の加入

備えとして、ボランティア活動保険があります。加入手続きは、原則、居住地の社会福祉協議会で行います。

⑤ 募金も大切な支援

募金も大切な支援の一つです。また、復旧活動が長期化した場合など、被災地への観光や物産品の購入も、被災地の復興につながります。

災害ボランティアの服装や持ち物の一例



活動の装備は「多すぎず、少なすぎず」。服装や携行品は、災害の種類や規模、活動時期によって異なるので、状況に合わせて必要最低限のものを用意しよう。

- 帽子・ヘルメット ● マスク
- 軍手やゴム手袋(滑り止めのついたものが便利)
- 長袖・長ズボン
(短パンは×、動きやすく、吸湿性・通気性や防寒を考慮したもの)
- タオル ● 長靴・運動靴 ● 着替え(活動後の着替え)
- 雨具(小雨でも活動する機会が多いため、上下分かれた雨具も便利)
- 常備薬・目薬やうがい薬
- 食べ物・飲み物
(腐りにくいものを用意。汗をかくので、水分・塩分はこまめにとる)

被災地で行われた防災ボランティア活動の例

- 避難所でのお手伝い
(炊き出し、洗濯など)
- 話し相手
- 子どもの遊び相手、託児代行
- ペットの世話
- 暮らしに必要な情報の提供支援
(FM放送、ニュースレター、ミニコミ誌など)
- 家の片付け
- 水害の場合の泥出し
- 暮らしのお手伝い
(お買い物、家事手伝い、家庭教師など)
- 配食サービス
- 生活物資等の訪問配布
- 被災された方々に元気になっていただくための交流機会づくり、イベント開催
- 暮らしの再建のための専門家の相談会、勉強会
- 復興期における地域おこしのお手伝い

以上、災害ボランティア活動を行なうにあたっての主な注意点をご紹介しました。災害ボランティア活動に参加する際は、被災地に迷惑や負担をかけない備えと心構えが何より重要です。

なお、災害ボランティアに参加する際の予備知識として、全国社会福祉協議会の「全社協 被災地支援・災害ボランティア情報」や「NPO法人レスキューードストック」のホームページに細かく掲載されていますので参考にしてください。



都道府県社協は・・・

各都道府県並びに政令指定都市の社会福祉協議会は、大規模な災害が発生した際に、相互に必要な支援を行なえるよう相互支援協定を締結しています。今回の西日本豪雨災害においても、県内の社協職員を広島県三原市社協に派遣し災害ボランティアセンターの運営支援にあたりました。

また、本県で災害が発生した際に備え、毎年、山梨県が実施する地震防災訓練に合せ、市町村社会福祉協議会と協働により「災害ボランティアセンター設置・運営訓練」を実施しています。

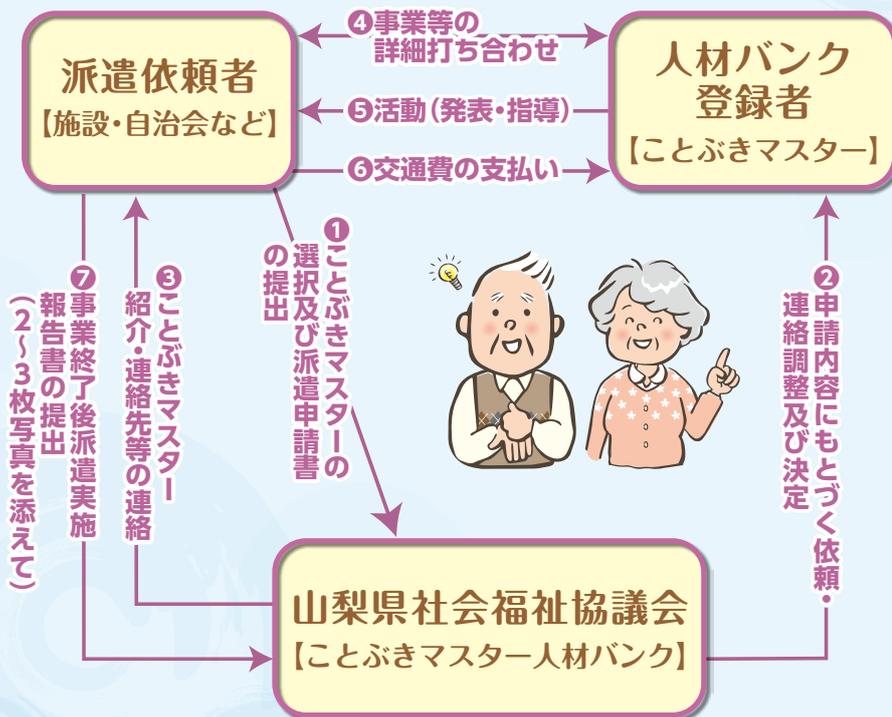
私たち社会福祉協議会は、地域福祉を推進する団体として、日頃から地域住民やボランティア、さらには様々な福祉関係団体等と連携し各種福祉事業を展開しています。



今回取り上げた災害時の支援活動においても、日頃から住民と共に地域づくりに関わっているからこそ、災害時にも、地域福祉の視点を持って、支援活動のコーディネートと復興に向けた新たなコミュニティづくりに関わることができると考えています。こうした社会福祉協議会の強みを活かし、これからも「誰もが安心して暮らし続けることができる地域社会の実現」を目指していきます。

(出典・引用) 内閣府ホームページ/全国社会福祉協議会ホームページ

ことぶきマスター人材バンク利用の流れ



ことぶきマスター制度とは…

山梨県では昭和56年から、長い人生経験の中で培ってきた知識や技能、生活の知恵を持ち、地域づくり等に貢献している60歳以上の方やグループを「ことぶきマスター」として認定しています。ことぶきマスターは、山梨県社会福祉協議会が運営する「ことぶきマスター人材バンク」に登録していただき、各種施設や地域での様々なイベントやレクリエーションなどで、活躍しています。

問い合わせ先

福祉振興課 ことぶきマスター担当
TEL:055-254-8610

平成30年度(第78回)

関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会が開催されました

6月26日(火)、27日(水)に「平成30年度(第78回)関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会」が県内外から、300人を超える方の参加を得て、盛大に開催されました。

本大会は、関東ブロック1都10県8政令指定都市の民生委員・児童委員の代表者が一堂に会し、今後の活動内容や当面する共通課題についての認識を共有し、意見交換を行い、交流を深めるとともに、これからの民生委員・児童委員活動の充実を目指すことを目的としています。

1日目の式典・全体会では全国民生委員児童委員連合会会長 得能金市氏からご挨拶をいただき、記念講演では、「フードバンク活動から見える子どもの貧困」をテーマに、認定NPO法人フードバンク山梨理事長 米山けい子氏に講演していただきました。情報交流会では、笛吹市の伝統芸能である笛吹薪能や武田節を県外参加者の皆さんにお楽しみいただきながら、交流を深めていただきました。

2日目には、4つの分科会に分かれ、各都県市の代表者が実践報告を行い、さまざまな意見交換が行われました。また、分科会には、コーディネーターとして講師の先生をお招きし、実践報告や意見交換に対し助言や総括などをしていただき、充実した内容となりました。



山梨県シルバー作品展・ シルバー俳句大会 作品紹介



山梨県シルバー作品展 優秀賞の紹介



日本画「楼閣(中国山西省)」
宮澤 千秋(79歳)

日本画「灼熱」
鈴木美恵子(71歳)



洋画「八ヶ岳遠景」
田代 眞由美(75歳)



彫刻「能面 孫次郎」
木下 政明(80歳)



彫刻「横顔」
土橋 昭(89歳)



工芸「屏風(希望)」
相澤 登(83歳)



工芸「忠霊塔」
渡辺 靖夫(76歳)

書「起清風」
三枝 満佐美(79歳)



写真「水行」
村松 勇(76歳)

写真「岩水」
藤本 紘(74歳)



※敬称略・年齢は、平成31年4月1日現在。

日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門に、209点の作品が集まりました。

各部門で優秀賞に選ばれた作品は、11月に開催される「第31回全国健康福祉祭とやま大会」の美術展に山梨県代表作品として出品されます。

山梨県社会福祉協議会は、6月22日から6月24日までの3日間、「いきいき山梨ねんりんピック2018 山梨県シルバー作品展・シルバー俳句大会」を甲府市・山梨県立図書館1階イベントスペースで開催しました。



山梨県シルバー俳句大会 特選句の紹介

山田 省吾 選

蛇笏忌や甲斐にひと日の小糠雨

都留市 前田智子 七四歳

上田 正久日 選

現役を通すつもりや年迎ふ

富士吉田市 小林祥子 七五歳

加藤 勝 選

久遠寺のしだれ桜の虜なり

北杜市 浅川六子 七七歳

路地の雪搔く青年の寡黙なる

南アルプス市 野中弓子 七七歳

手をつなぎ最後かもねと花見旅

甲府市 渡辺 優 八一歳

一合の米といでおり夕河鹿

身延町 望月ミチ子 八四歳

背を流すやうに声かけ墓洗ふ

富士吉田市 宮下節子 七四歳

背を流すやうに声かけ墓洗ふ

富士吉田市 宮下節子 七四歳

大空を鳶が磨き七五三

南アルプス市 荻野重美 八七歳

鎌を研ぐ記憶の父や青田風

笛吹市 鈴木広明 八四歳

風を読み火の先よみて野焼かな

都留市 谷内京子 六八歳

蝸牛雲のはなれぬ山ばかり

甲州市 三枝茂男 八一歳

ザイル揺るそそり立つ岩いわし雲

西桂町 高尾正和 六四歳

甲斐に生れ峡に還りて春の土

甲府市 芹澤千束 六五歳

大空を踏みはずしたか雲雀落つ

笛吹市 佐藤泰雄 八五歳

※敬称略・年齢は、平成30年6月22日現在。

同時に開催した「シルバー俳句大会」には、県内の60歳以上の人から、691句の作品が集まり、5月17日に3人の選者(山田省吾さん、上田正久日さん、加藤勝さん)により審査会を行い、特選15句、秀作30句、佳作45句が決定しました。

スポーツボランティアの養成を行っています

山梨県ボランティア・NPOセンターでは、6月16日(土)に「スポーツボランティア研修会 IN 山梨」を山梨学院大学50周年記念館で開催しました。

この研修会は、幅広い世代の関心事である「スポーツ」とおして、多くの方々にボランティア活動を始めるきっかけをつくることを目的として開催しました。

当日は、学生から社会人まで36名が受講し、スポーツボランティアの活動に必要な基礎知識を学び、また、ボランティア活動を行う上で必要なコミュニケーションスキルを高めるグループワークなどを行いました。受講者からは、「スポーツボランティアについて詳しく知ることが出来た」、「アイスブレイクの実践を通して人との友好関係を築くことが出来た」などといった感想が寄せられました。

今後、山梨県ボランティア・NPOセンターとしては、研修会修了者に対して、スポーツイベントでのボランティア活動先を案内し、県内におけるボランティア活動の振興を図って参ります。

チームワークを深めるグループワークの様子



スポーツボランティアの 基本についての講義の様子



生活福祉資金貸付事業研修会

6月7日(木)山梨県福祉プラザ大会議室にて「生活福祉資金貸付事業研修会」を開催しました。

市町村社会福祉協議会、自立相談支援機関、町村役場の各機関から38名が参加し、制度の概要や各資金種類別の取扱い、債権管理の方法、自立相談支援制度との連携など、基本的事項から実践的な内容まで、制度の仕組みをあらためて確認する機会となりました。

研修会の後半には、参考事例を用いた事例検討を行い、生活福祉資金貸付制度と生活困窮者自立支援制度が連携した相談支援の方向性や、幅広い相談対応～支援の進め方を考え、他地域の担当者と意見交換しながら学びを深めることができました。

生活福祉資金貸付事業は、低所得者・障害者または高齢者に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、その経済的自立及び生活意欲の助長促進、並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるようにすることを目的としています。また、生活困窮者自立支援法に基づく各事業と連携し、効果的、効率的な支援を実施することにより、生活困窮者の自立の促進を図るものとしています。

県社協では、これからも市町村社会福祉協議会、自立相談支援機関、民生委員・児童委員など関係者と連携しながら、適切な制度運用を図って参ります。



研修受付
システム



新規登録
申込受付
変更など

研修受講サポートシステムはじまりました。

○研修の申込・変更・取消 ○研修申込状況の確認
○研修の受講履歴の確認 ができます。

まずは、事業所登録を
山梨県社会福祉協議会HP
<http://www.y-fukushi.or.jp>

社会福祉施設・介護保険事業従事者対象の研修

● 無料研修

対象者	研修名	開催予定日	開催時間	定員	会場	
中堅者	社会福祉施設(事務担当)研修	9月12日(水)	9:30~15:30	60名	山梨県福祉 プラザ4階	
	老人福祉施設職員研修	9月26日(水)	9:30~15:30	60名		
	キャリアパス 支援研修 中堅職員・ チームリーダー 対象	OJTリーダー 研修	10月17日(水)	9:30~16:30	50名	山梨県地場 産業センター
		モチベーション アップ研修	11月15日(木)	9:30~16:30	50名	

● 有料研修

対象者	研修名	開催予定日	開催時間	定員	会場	参加費(会員/非会員)
中堅者	アンダー マネジメント研修	9月28日(金)	10:00~16:00	50名	山梨県福祉 プラザ4階	5,000円/7,000円
	カウンセリング研修	11月21日(水)	9:30~15:30	50名		5,000円/7,000円
	介護職員のための 薬の基礎研修	12月13日(木)	13:30~16:30	50名		4,000円/6,000円
管理者	社会福祉法人 セミナー	2月~3月	調整中	100名	調整中	5,000円/7,000円
	福祉の職場における 職員の定着支援研修	1月~2月	10:00~15:00	50名	山梨県福祉 プラザ4階	5,000円/7,000円
	デイサービスセンター 事業者の経営戦略セミナー	2月7日(木)	調整中	50名		5,000円/7,000円
	高齢者等福祉施設 リスクマネジメント研修	12月5日(水)	13:30~16:30	50名		5,000円/7,000円
福祉の職場メンタル ヘルス研修	10月17日(水)	9:30~15:30	60名	3,000円/5,000円		
技術研修	介護記録の 書き方	応用編	9月14日(金)	10:00~16:00	30名	4,000円/6,000円

※各研修の詳細は、山梨県社会福祉協議会ホームページ(<http://www.y-fukushi.or.jp>)の新着情報でご確認ください。

【問い合わせ先】 福祉人材研修課 研修担当 TEL:055-254-8610



介護講座のご案内



一般県民向け・高齢者介護をしているご家族向け介護講座

講座名	開催予定日	予定時間	定員	会場
認知症サポーター養成講座	10月19日(金)	10:00~12:00	30名	山梨県福祉プラザ1階
	11月26日(月)	10:00~12:00	30名	
■テーマ別介護講座				
お年寄りにやさしい食事を考える (調理実習)	9月4日(火)	9:00~14:00	20名	山梨県福祉プラザ1階
	9月6日(木)	9:00~14:00	20名	
	9月12日(水)	9:00~14:00	20名	
お年寄りに起こりやすい 病気と予防・救急法	10月4日(木)	10:00~16:00	30名	
家で迎える終末期について考える	10月5日(金)	13:30~15:30	30名	
快適排泄のポイント	10月11日(木)	10:00~16:00	30名	
■認知症高齢者介護講座				
認知症の症状の理解・認知症の方への対応と介護の心がまえ	9月7日(金)	13:00~16:10	30名	山梨県福祉プラザ1階
認知症介護の経験者のおはなし ～認知症を持つ家族を介護して～	10月16日(火)	13:00~16:00	30名	

※受講料は無料です。(但し、「お年寄りにやさしい食事を考える」では1日あたり500円の材料費がかかります。)

【問い合わせ・申し込み先】 介護実習普及センター TEL:055-254-8680

高齢者と障害者の自立のための
第45回
国際福祉機器展
H.C.R.2018
45th Int'l Home Care & Rehabilitation Exhibition 2018



会期 2018年10月10日(水)～12日(金)
開催時間 10:00～17:30(12日のみ16:00まで)
会場 東京ビッグサイト 東展示ホール
(東京・江東区有明)
入場料 無料・登録制(一部のプログラムは有料)
展示 14か国・1地域の560社から
 約20,000点の福祉機器が一堂に!

●併催イベント(予定)

▶国際シンポジウム

テーマ:仕事と育児・介護の両立支援～その現状と対策～
 内容:介護や育児のために仕事を辞める離職問題等について、仕事と育児・介護の両立支援のために先駆的施策を展開しているスウェーデンから講師を招き、その現状に学びつつ、日本の今後の両立支援のあり方について考察します。
【日時】 2018年10月11日(木) PM
【会場】 東京ビッグサイト 東展示ホール

▶H.C.R.セミナー ～さまざまな参加者を対象に、役立つ最新情報を提供

▶H.C.R.特別企画 ～最新機器、子どもむけ製品などを集中展示

注目 パラスポーツコーナー ～デモや体験でもっと身近に!

▶出展社主催プレゼンテーション ～各社製品の特徴の紹介・PRなど

※プログラムは変更されることがあります。最新情報と詳細はH.C.R.Webサイト(<https://www.hcr.or.jp>)でご確認ください。

その他、多彩なプログラムを実施!

WEBサイト▶ <https://www.hcr.or.jp>

H.C.R.2018事務局 〒100-8980
 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル
 一般財団法人 保健福祉広報協会 Tel. 03-3580-3052 / Fax. 03-5512-9798



上野原市 ボランティアセンター

上野原市ボランティアセンターでは、市内で活動するボランティアの方たちが気持ちよく活動できるように支援や推進を行っています。ボランティア活動の輪を広げ、共に支え合い、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

ボランティアの相談・斡旋

ボランティアに興味がある方や実際に活動を行っている方のサポートを行っています。ボランティアを必要としている方や団体のニーズにマッチした活動者の紹介やボランティア情報の提供など様々な相談に対応しています。



福祉講話の様子

福祉教育の推進

夏休み期間中に児童・学生を対象とした「福祉チャレンジ」を実施しています。高齢者の疑似体験や障がい者との交流、手話体験などを通して福祉に対する興味・関心を高めることを目的としています。また初級手話講習会の実施や福祉講話の実施・調整なども行い、福祉教育の推進を行っています。



福祉チャレンジの様子

ボランティアの広報・啓発



社協だより「ボランティア広場」

年に4回発行している社協だよりに「ボランティア広場」コーナーの掲載やホームページを活用し、ボランティア活動を広く周知しています。また、毎年ボランティアまつりを開催し、ボランティアをもっと身近に感じてもらうことで誰でも参加できるようなきっかけ作りの場を提供しています。

災害ボランティアセンター 立ち上げ訓練

災害時を想定して毎年、市の実施する総合防災訓練の際に災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を実施しています。ニーズの把握やボランティアの受入、マッチングなどを行い、有事の際に備えています。



災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練の様子

上野原市社会福祉協議会

業務時間：月～金曜日 8:30～17:15

住所：上野原市上野原 3163

TEL：0554-63-0002

<http://uesya.com/>

FAX：0554-63-0210

この広報紙の作成費用の一部は赤い羽根共同募金配分金により発行されています。



平成30年度 赤い羽根共同募金運動 街頭募金活動について

山梨県社会福祉協議会では、10月1日(月)、2日(火)、6日(土)の3日間、甲府駅周辺にて、赤い羽根共同募金運動に係る街頭募金活動を行います。詳細は、県社協ホームページでご案内しています。皆様のご協力をお願いいたします。

【街頭募金活動】

平成30年10月1日(月)、2日(火)、6日(土) 計3日間

ホームページ <http://www.yamanashi-nponet.jp/>

お問い合わせ 山梨県社会福祉協議会
山梨県ボランティア・NPOセンター
☎055-224-2941



いきいき山梨ねんりんピック2018

9月29日(土)に「いきいき山梨ねんりんピック2018」を開催します。

この大会では、お年寄りから子どもまで世代を超えて交流を深めることを目的に、甲府・小瀬スポーツ公園をメイン会場として様々なイベントを用意しています。

選手の方だけでなく、一般の県民の皆様が楽しめる出展ブースやコーナー等を設けておりますので、どうぞご家族でご参加ください。

日時 平成30年9月29日(土) 9:00~15:00

会場 小瀬スポーツ公園他

お問い合わせ 山梨県社会福祉協議会福祉振興課
☎055-254-8610

福祉のお仕事

http://www.fukushi-work.jp/

モバイル版はQRコードから!



「福祉のお仕事」ホームページは、福祉・介護の求人情報をお探しいただけるほか、求職票の登録や希望する求人に応募することができます。また、法人・事業所登録をすると、求人ホームページに公開する事もできます。

関自共の自動車共済

団体割引 10%
福祉施設割引 10%



*団体割引は共済契約者、被共済者が当組合の規定を満たす場合のみで、台数規模と損害率により決定し、毎年見直されます。

関東自動車共済協同組合 山梨県支部 甲府市飯田4-4-2 TEL 055-237-8331 FAX 055-237-8332

貸し出し 図書紹介

イラストでわかる 介護・福祉職のための マナーと接遇

著者 関根健夫・杉山真知子
発行者 荘村明彦
発行所 中央法規出版株式会社
〒110-0016
東京都台東区台東3-29-1 中央法規ビル
Tel(営業) 03-3834-5817 fax 03-3837-8037
Tel(編集) 03-3834-5812 fax 03-3837-8032
ホームページ <https://www.chuohoki.co.jp/>



社会人の基本マナーをはじめ、来客・訪問・介護等の場面別に介護・福祉職に求められるマナーと接遇をイラストや図表で見やすく解説しています。

クレーム対応や電話・メールのマナーも収録されているため、仕事力を高めるコミュニケーションスキルを磨くことのできる充実した内容で、すぐに使える接遇術を学ぶことができます。

このほかにも介護・看護・福祉についての本(約300冊)やビデオ・DVD(約200本)を貸し出しております。詳しくは県立介護実習普及センターにお問い合わせください。
☎055-254-8680

福祉のおしごと マッチングカフェ

採用予定のある事業所と、お仕事を探しているあなたをつなぐ、個別面談・相談会を行います。

- 9月の予定
 - 5日(水) ニチイケアセンター
 - 12日(水) ジリツアカデミージュニア
 - 19日(水) 恵信サテライトロジェ山梨 他
 - 26日(水) フルリールにらさき
- 10月の予定
 - 3日(水) グループホームひかり
 - 10日(水) パティオ蓬沢
 - 17日(水) 敷島緑陽園
 - 24日(水) 愛の家グループホーム甲府増坪
 - 31日(水) 特別養護老人ホームいけだの里 他

時間 14:00~16:00
会場 福祉人材センター
山梨県福祉プラザ4階
お問い合わせ 福祉人材センター
☎055-254-8654



LINE@ 友だち募集中。

友達登録で 人材センター情報をGET!!




山梨県福祉人材センター